

女優と巨匠～田中絹代と溝口健二～

日本映画の古き良き名作を、近年失われつつある 35 mm フィルムの上映で味わっていただくことを目的とした「優秀映画鑑賞推進事業」。

今回は、開催中の特別展「田中絹代—女優として、監督として」に合わせ、巨匠・溝口健二監督と女優・田中絹代による代表作を中心にをご紹介します。世界にその名を轟かす監督と女優が正面から組み合い、傑作が生まれる様を是非ご堪能ください。



西鶴一代女

12月8日(水)・10日(金) 10:30
 ※12日(日) 14:00

1952年/白黒/136分/35mm/
 新東宝=児井プロ
 監督:溝口健二
 出演:田中絹代、山根寿子、三船敏郎、宇野重吉、菅井一郎、進藤英太郎、大泉滉、清水将夫、加東大介、松浦築枝、沢村貞子



浪華悲歌

12月8日(水) 14:00
 11日(土) 10:30

1936年/白黒/72分/35mm/
 第一映画
 監督:溝口健二
 出演:山田五十鈴、梅村蓉子、大久保清子、志賀彌家弁慶、進藤英太郎、原健作、志村喬

井原西鶴の浮世草子「好色一代女」が原作。封建制度下の江戸時代に、男性に翻弄され大名の側室から社会の底辺にまで転落したお春を田中絹代が演じた。第13回ヴェネチア国際映画祭で国際賞を受賞して以降、この作品は「お春の一生」として日本映画を代表するようになり、フランスをはじめとする欧米各国に溝口健二の名を知らしめた。

※上映後に学芸員による解説がございます。

戦前期における溝口健二の傑作。大阪の製薬会社で電話交換手として働くモダンガールのアヤ子(山田五十鈴)の生き様を描く。男たちの欲望と卑劣さの餌食になるアヤ子の姿を、徹底的に冷ややかな視線で捉えた演出は多くの評判をよんだ。日本初の女性映画監督であり、溝口組の助監督だった坂根田鶴子が編集を務めている。



雨月物語

12月9日(木) 14:00
 12日(日) 10:30

1953年/白黒/97分/35mm/
 大映(京都)
 監督:溝口健二
 出演:京マチ子、水戸光子、田中絹代、森雅之、小沢栄太郎、青山杉作、羅門光三郎、香川良介、上田吉二郎、南部彰三



山椒大夫

12月9日(木) 10:30
 10日(金)・11日(土) 14:00

1954年/白黒/124分/35mm/
 大映(京都)
 監督:溝口健二
 出演:田中絹代、花柳喜章、香川京子、進藤英太郎、河野秋武、香川良介、三津田健、浪花千栄子、見明凡太郎、菅井一郎

怪奇文学の父・上田秋成によって江戸時代後期に著された短編が原作。人間の欲望が引き起こす悲劇を、戦国時代の二組の夫婦を通じて対照的に描く。田中絹代は家族3人で貧しくともささやかな幸せを望む妻・宮木を演じた。霧たちこめる琵琶湖に舟を漕ぐシーンの他、映画史上に残る名場面がらりばめられる。第14回ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞。

「安寿と厨子王丸」の童話でも知られる説経節を基にした森鷗外の小説が原作。中世荘園の奴隷制度における悲劇を描く。原作では安寿と厨子王は子どものままだが、映画では成人してからの二人に重点が置かれている。田中絹代は佐渡に売られ盲目となった母・玉木を演じた。第15回ヴェネチア国際映画祭で『雨月物語』に続き2年連続で銀獅子賞を獲得。

	12月8日(水)	9日(木)	10日(金)	11日(土)	12日(日)
10:30	西鶴一代女	山椒大夫	西鶴一代女	浪華悲歌	雨月物語
14:00	浪華悲歌	雨月物語	山椒大夫	山椒大夫	西鶴一代女 +上映解説

鑑賞料金 一般:500円 小・中学生:250円(特別展観覧料含む)

※優秀映画鑑賞推進事業観覧料規定による

チケット発売開始日:11月13日(土)

※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。詳しくはお問合わせください。
 ※入館時、館内での感染予防対策にご協力ください。



〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

TEL:0467-23-2500

<https://kamakura-kawakita.org>